

第2章 名瀬市の地域概況

1. 自然環境
2. 社会環境

1. 自然環境

1.1 地勢

名瀬市は東経 129° 29′ 45″ 北緯 28° 22′ 25″ に位置し、大小 8 つの島からなる奄美群島の奄美大島本島中央部にあり、西は大和村、住用村に、東は龍郷町に隣接している。

奄美群島は鹿児島県の南 380km に位置する奄美大島から、沖縄を間近に望む与論島まで約 180km の洋上に点在している。

名瀬市の市街地は、北に東シナ海に面して重要港湾名瀬港、大熊漁港を、南には、太平洋に面する小湊漁港、崎原漁港を有している。

南北に長く市街地を形成しており、中央部は最高 455.2m までの連山で占められている。

太平洋に注ぐ大川、東シナ海に流れ込む新川、浦上川、芦花部川、知名瀬川等が主な河川である。

図 2-1 名瀬市の位置

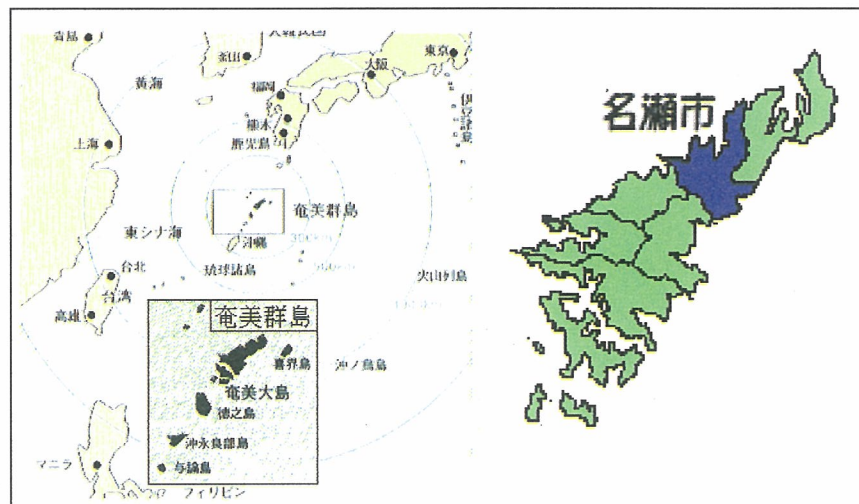


表 2-1 名瀬市の主要山岳

名称	高さ(m)	所在地
松長山	455.2	大字朝戸字石嶺山原
コ川原山	421.0	大字小湊字コ川原山
中山	416.0	大字知名瀬字中山
中川山	405.0	大字小湊字中川山
見立山	375.9	大字金久字見立山
屋又山	369.0	大字知名瀬字屋又

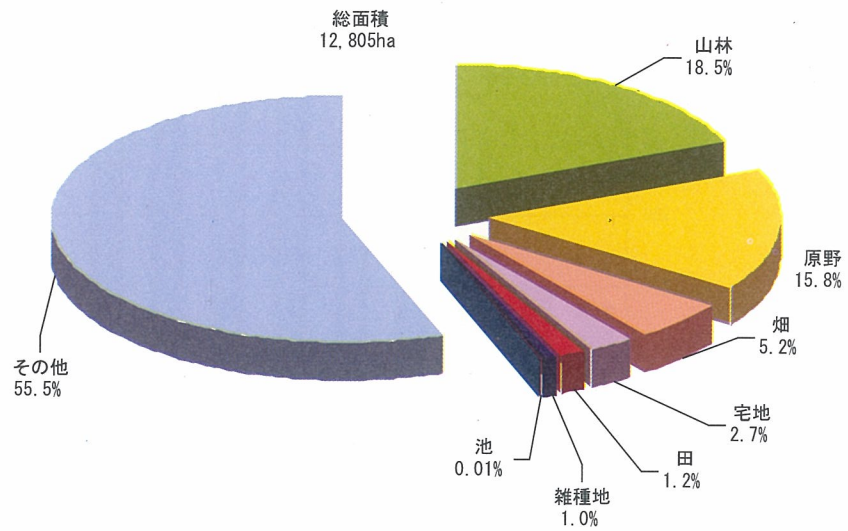
出所：統計書なぜ平成 11 年度

表 2-2 名瀬市の主要河川

名称	流路延長(km)	流域面積(km ²)
大川	10.3	32.5
有屋川	4.8	7.7
浦上川	5.1	15.1
小宿大川	4.0	5.6
新川	3.3	10.7
芦花部川	5.8	5.6
知名瀬川	4.6	9.9

出所：統計書なげ平成 11 年度

図 2-2 地目別土地面積 (H12.1.1)



出所：名瀬市税務課

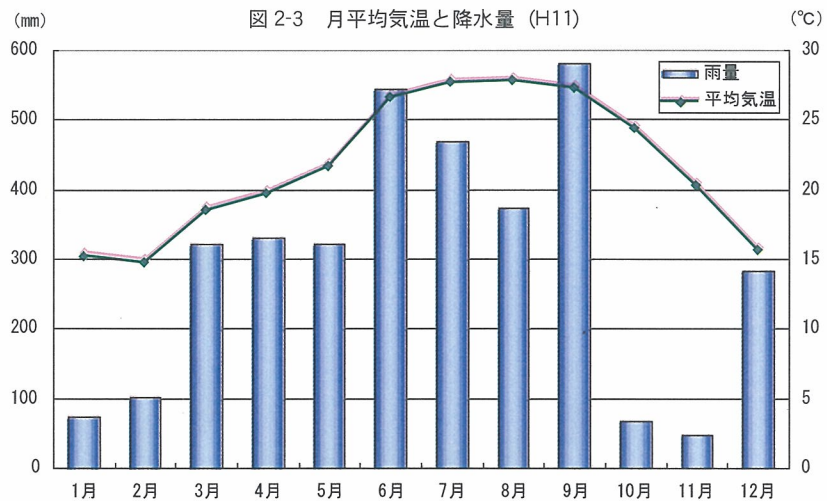
1.2 気象条件

奄美大島の気候は亜熱帯海洋性で、四季を通じ温暖、多湿である。日平均気温が10℃以下になる日はない。

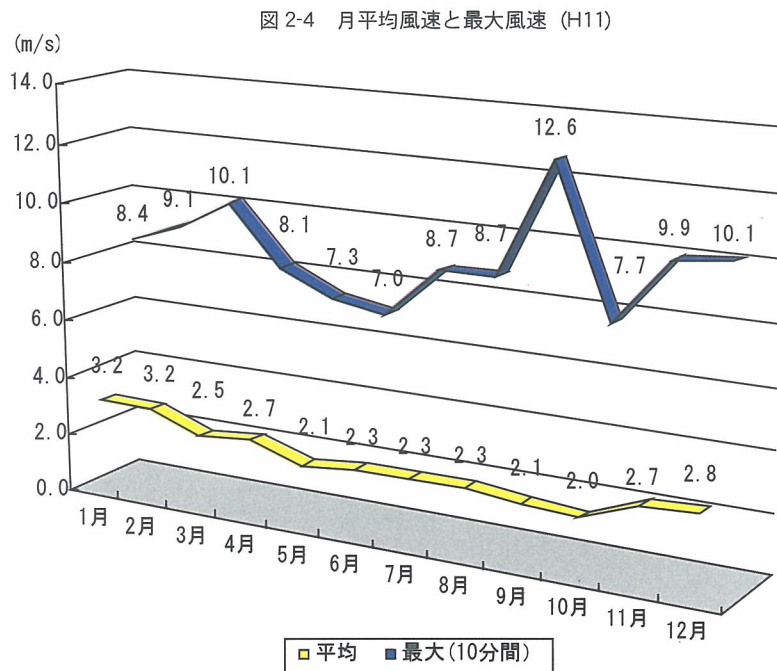
降水量は全般的に多く、特に本市の属する大島本島は日本で有数の多雨地で、年間3000mm前後の雨が降る。

季節風は夏と冬に著しく、夏は南東から南、冬は北から北西の風となる。冬の季節風は11月から3月頃までにおよび、最盛期の12月後半から2月にかけては最大風速が10m/sを越える日が数日続くことも多い。

台風の常襲地帯で、6月頃から来襲し、8月に最も多い。



出所：統計書なぜ平成11年度



出所：統計書なぜ平成11年度

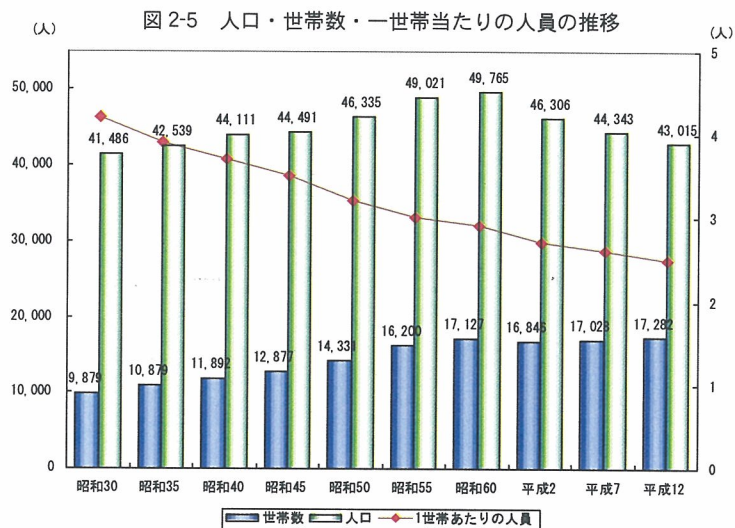
2. 社会環境

2.1 人口・世帯数

人口は昭和 60 年の 49,765 人をピークに以後減少傾向となり、平成 12 年は 43,015 人となっている。

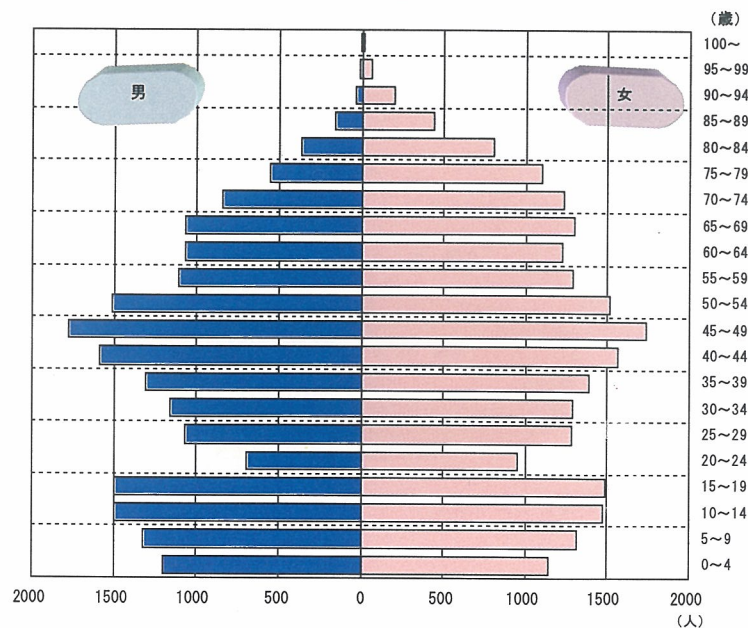
世帯数は、昭和 60 年に 17,127 世帯まで増加し、平成 2 年に減少したが、その後再度増加傾向を示し、平成 12 年は 17,282 世帯となっている。平成 12 年の一世帯当たりの人員は 2.49 人である。

年齢階層別人口をみると 0～14 歳が 18.5%（県平均 15.7%）と高く、65 歳以上が 19.1%（県平均 22.6%）と低く、若い世代が多い。



出所：名瀬市勢要覧 2001

図 2-6 年齢階層別人口



出所：平成 12 年国勢調査

2.2 産業構造

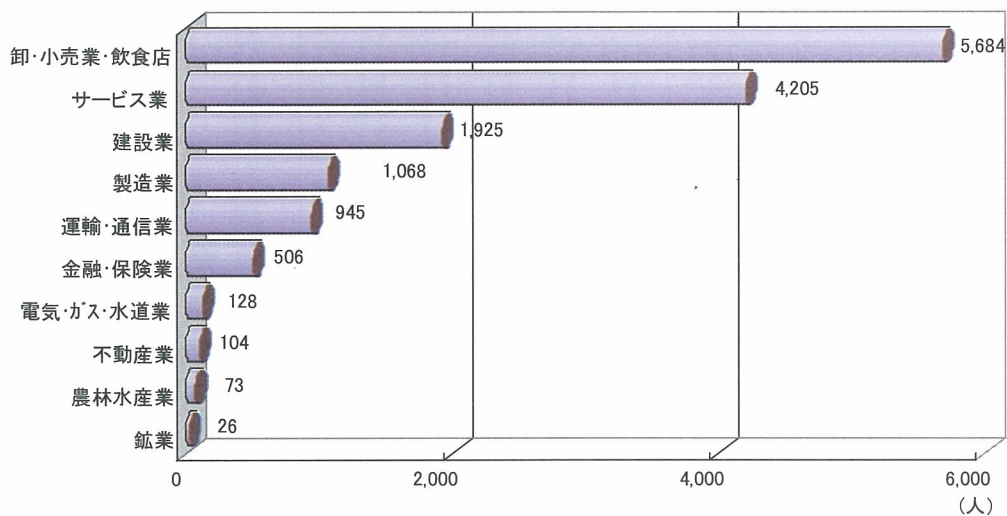
産業別就業者数をみると、卸・小売業・飲食店が最も多く、次にサービス業、建設業と続いている。

産業別純生産の構成比では、産業別就業者数と同様、サービス業・公務（47.5%）と卸・小売業（18.2%）の比率が高いことが特色であり、名瀬市の基幹産業ともいえる。第3次産業の構成比は87.4%にも達する。

農林水産業については、産業別純生産の構成比が1.1%、従業者数も73人と少ない。主な作物は、たんかん、鉢物類等である。漁獲量の多い魚種は、うめいろ・青ダイ・ヒメダイやマグロ類である。

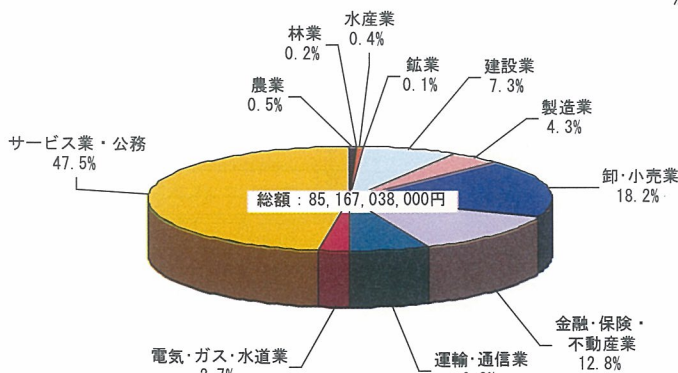
第2次産業も産業別純生産の構成比が11.7%と低い水準にある。製造業で出荷額の高い業種は食料と繊維である。

図 2-7 産業別就業者数



出所：H12 事業所統計調査

図 2-8 産業別純生産の構成



出所：平成 10 年度市町村民所得推計報告書

注) 純生産の概念

市町村内純生産とは、一定期間内に市町村内の各産業部門の生産活動によって、新たに生み出された純生産物の貨幣評価額を産業源泉別に示したものである。これは市町村内の生産活動に対する各産業の寄与を表わすものであって、各部門の生産から物的経費を控除したものに当たる。なお、支払利子は物的経費に含めない。

市町村内純生産は各産業ごとの純生産の合計から帰属利子を控除したものであり、図 2-8 における分類比率は帰属利子を控除する前の段階で算定している。

2.3 公共施設

名瀬市の主要な公共施設は次表のようになっている。

表 2-3 主要な公共施設等

施設名	数/備考	施設名	数/備考
名瀬市役所		公立幼稚園	5ヶ所
奄美海洋展示館		大島地区消防組合消防本部	
奄美文化センター		交番	5ヶ所
奄美博物館		駐在所	13ヶ所
大浜海浜公園		名瀬クリーンセンター	ごみ焼却施設
陸上競技場		病院	7ヶ所
テニスコート		診療所	34ヶ所
野球場		乳児院	
多目的広場		母子生活支援施設	
プール		養護施設	
弓道場		ちびっ子広場	19ヶ所
ジョギングコース		へき地保育所	2ヶ所
総合体育館		保育所	8ヶ所
古見方多目的広場		児童館	4ヶ所
市立体育館		児童センター	
サンドーム		へき地保健福祉館	5ヶ所
奄美少年自然の家		老人福祉会館	
名瀬中央公民館		老人憩いの家	
公民館地区分館	3ヶ所	軽費老人ホーム	
県立図書館奄美分館		養護老人ホーム	
奄美看護福祉専門学校		特別養護老人ホーム	2ヶ所
高等学校	3ヶ所	知的障害者更正施設	
中学校	7ヶ所	福祉作業所	
小学校	10ヶ所	公営住宅	
名瀬警察署		測候所	
奄美群島振興開発基金		保健所	
合同庁舎(国)		名瀬郵便局	
港湾合同庁舎		農業試験場大島支場	
大島支庁		大島紬技術指導センター	
地方裁判所名瀬支部		私立幼稚園	2ヶ所
検察庁		奄美大島商工会議所	
法務局		名瀬漁業協同組合	
農業研修センター		JA 奄美名瀬支所	

また、平成13年度の主な公共施設の改修計画等は次表のようになっている。

表2-4 平成13年度の主な公共施設改修計画等

事業名	概要	事業費 (百万円)
公営住宅整備事業	有良特定公共賃貸借住宅(H13~14 国債)他	146
既設市営住宅改善事業	外壁落下防止対策、下水道切替改修工事他	116
街灯設置及び維持補助事業	設置及び維持費	3
公立学校施設整備事業	芦花部小中学校校舎建設事業(H12)	539
	名瀬中学校校舎改築設計・地質調査委託	80
	奄美小学校屋内運動場改修工事設計委託	3
	奄美小学校屋内運動場改修工事	96
義務教育施設整備事業	名瀬中学校教職員住宅建築工事	49
学校施設営繕事業	小中学校プール・外壁・遊具・雨漏り補修等	21
クロスカントリーコース整備事業	測量設計業務委託	8

2.4 本市の主要な計画の概要

名瀬市総合開発計画（後期基本計画）（平成9年度～13年度）と辺地総合整備計画（平成13年度～17年度）は次のようになっている。

表 2-5 名瀬市総合開発計画[後期基本計画]

基本理念	自然の魅力あふれる、南海の産業文化都市をめざして
計画期間	平成9年度～13年度
構成	土地利用、分野別基本方向、戦略プロジェクト、計画実現のために
土地利用	既成市街地の再生、快適な都市市街地の形成、活力ある農漁村地域の整備、国土調査
分野別基本方向	産業を振興し、調和のとれた豊かなまちづくり 南海の魅力を生かすまちづくり 健康と安全を守り、幸せで生きがいのあるまちづくり 教育・文化を高め、豊かな人間性創造のためのまちづくり
戦略プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ネットワークプラン 21：基幹道、広域道、交通機関拠点整備等 ・ 高齢者いきいき活躍プラン 21：職場確保、生きがい対策、在宅福祉充実等 ・ 人材・文化育成プラン 21：高等教育機関機能強化、施設整備、文化の交流・発信等 ・ 産業活性化プラン 21：「亜熱帯の自然郷・ティダとフルーツの里」整備構想等 ・ TIDA ネシアの創造：スポーツアイランド構想、定住促進計画等

表 2-6 辺地総合整備計画

(単位：千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源の内 辺地対策事業 債の予定額
			特定財源	一般財源	
道路・橋梁	名瀬市	1,794,000	1,063,400	730,600	730,600
農道・林道	名瀬市	579,218	423,993	155,225	154,900
教職員住宅	名瀬市	150,461	68,200	82,261	72,800
学校給食設備	名瀬市	665,000	80,000	585,000	200,000
消防施設	大島地区消防組合	203,695	14,964	188,731	188,500
観光・ レクリエーション施設	名瀬市	570,407	150,000	420,407	420,400
合計		3,962,781	1,800,557	2,162,224	1,767,200